



水中^{すいちゆう}めがね^{をつか}を使う^{ちゆうい}ときには、どんな注意^{ちゆうい}をすればいいの

よごれをよく^お落とす

水中^{すいちゆう}めがねは、泳ぐ^{およ}ときや、水^{みず}の中^{なか}を観察^{かんさつ}するとき^{をつか}に使うと、たいへん^{べんり}便利です。しかし、水中^{すいちゆう}めがねのとう明^{めい}な部分^{ぶぶん}に、よごれがついてると、よく見えませんし、くもりの原因^{げんいん}にもなりますので、使う^{つか}前に、よごれをよく^お落としましょう。

かたいものにぶつけない

水中^{すいちゆう}めがねのとう明^{めい}な部分^{ぶぶん}は、ガラスやプラスチックでできているため、かたいものにぶつくと、割^われることがあります。水中^{すいちゆう}めがねをかけたままで、石^{いし}などにぶつくと、きけん^{ちゆうい}なので注意^{ちゆうい}しましょう。

顔^{かお}によく^あ合ったもの^{えら}を選ぶ

水中^{すいちゆう}めがねでいちばん大事^{だいじ}なのは、中^{なか}に水^{みず}が入^{はい}ってこないことですので、かけてみて、顔^{かお}にぴったり吸^すいつくくらい^{えら}のものを選びましょう。これは、一つ目玉^{めだま}のものの場合^{ばあい}、水中^{すいちゆう}めがねをつけて、鼻^{はな}から息^{いき}を吸^すいこんでみると、たしかめられます。

また、形^{かたち}には、とう明^{めい}な部分^{ぶぶん}が両目^{りょうめ}に分^わかれている、二つ目玉^{めだま}のものと、一つになってい^{えら}るものとがあり、どちら^{じぶん}を選ぶ^{えら}かは、自分のこのみのほうを、選^{えら}べばいいのです。

まわりをよく^み見る

水中^{すいちゆう}めがねをかけてみた場合^{ばあい}、とう明^{めい}な部分^{ぶぶん}のまわりには、わくがあるため、見えるはんいが、ふつうよりせまくなります。ですから、動^{うご}く場合^{ばあい}には、まわりのようすによく注意^{ちゆうい}しながら、ゆっくり動^{うご}くようにしましょう。(監修・青木 国夫)

